

昭和 高等学校 令和6年度（1学年用） 教科 芸術 科目 美術 I

教科：芸術

科目：美術 I

単位数：2 単位

対象学年組：第 1 学年 A 組～ H 組

教科担当者：前田 宏美

使用教科書：（ 高校生の美術1<日本文教出版> ）

教科 芸術

の目標：

【知識及び技能】芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 美術 I

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働き等について考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価標準	知	思	態	配 当 時 数	
		絵 ・ 彫	デ 映								
A 単元 教科書作品鑑賞・発表 【思考力、判断力、表現力等】 ・興味を持った作品について詳しく分析し、レポートにまとめる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・自分が選んだ作品を模写することを通して、作品を理解しようとする。 ・上記の作品について考えを整理して発表する。	・指導事項 美術の様々な分野について解説し、様々な分野、時代の芸術に関心を持たせる。 ・教材 教科書 「高校生の美術1」	○	○	○	○	・興味を持った作品について自分なりの解釈を交えながら詳しく分析し、伝わりやすい表現でレポートにまとめられているか。 ・作品の理解を深めようと意欲的に模写に取り組んでいるか。 ・各自が選んだ作品について、その理由について他者に伝えるように発表することができたか。			○	○	2
B 単元 鉛筆デッサン基礎 【知識及び技能】 ・素描材料としての鉛筆の削り方や使用方法、基本形体の形の捉え方、立体感の表し方を学ぶ。 【思考力、判断力、表現力等】 ・形の捉え方や立体感の表現方法を、実践しながら学ぶ。 【学びに向かう力、人間性等】 ・事後レポートにこの単元の学びについてまとめる。	・指導事項 カッターの持ち方と使用方法を実演しながら解説する。また鉛筆の色の出し方を経験させる。 ・デッサンの基礎として、基本形体を描くことを通して、形の捉え方や立体感の出し方について指導する。 ・教材 教科書、基本形体デッサン見本シート、立体模型等	○	○		○	・デッサンに使用する鉛筆や削り方について理解し、鉛筆の色の出し方、タッチの入れ方をワークシートで丁寧に実践できているか。 ・それぞれの基本形体を、指導を受けた内容を踏まえて立体的にデッサンできているか。 ・基本形体の形の捉え方、立体感を表すための方法についてよく考えて活動に取り組んでいるか。 ・活動の振り返りを意欲的に行い、今後の活動に活かそうとしているか。			○	○	6
C 単元 対照的なイメージによる色彩構成 【知識及び技能】 ・色相、明度、彩度といった色彩の基礎知識について学び、作品の制作を通して色彩の違いによるイメージの違いについて実感する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・モチーフを効果的に単純化し、対照的なイメージになるよう色彩を工夫して表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・事後レポートにこの単元の学びについてまとめる。	・指導事項 色彩の基礎知識、形の単純化の方法、アイデアスケッチの方法、トレースの方法、色づくり、ベタ塗り（一面を均一に塗る）の方法等 ・教材 教科書、色彩掛図、配色カード、参考作品等 ・一人1台端末の活用 アイデアスケッチの資料探し			○	○	・色相、明度、彩度という色彩の三属性（三要素）やその扱い方によってイメージが変わることを理解できたか。 ・二つの作品は全く同じ形でありながら、色彩の違いにより対照的なイメージとすることができたか。 ・ベタ塗り（一面を均一に塗る）で丁寧に着色し、はみ出たり汚れたりした箇所は白色で修正できているか。 ・魅力的な主題の生成のために、アイデアを複数出して図案を検討し、同じ図案が対照的なイメージになるように色彩の構想を練っているか。 ・制作時間なりの完成度の作品となっているか。 ・主体的に表現活動に取り組もうとしているか。			○	○	18
D 単元 油彩による静物画制作 【知識及び技能】 ・油絵具の使用方法について学び、適切に扱うことで絵の具の特徴を活かした制作を行う。 【思考力、判断力、表現力等】 ・静物画の良い構図について学んだ上でモチーフを組み、自分の個性が発揮されるような静物画を制作する。 【学びに向かう力、人間性等】 ・事後レポートにこの単元の学びについてまとめる。	・指導事項 油彩道具の使用方法、準備の仕方と片付けの方法、油彩技法の特徴、静物画の構図について、立体感、空間感の出し方について、自然な色の作り方について等 ・教材 教科書、静物画名画の複製画、参考作品等	○			○	・良い構図で画面に取めることができたか。 ・油絵具の使い方を理解し、適切に扱うことができたか。 ・適切に陰影を表現し、写実的、立体的に描くことができたか。 ・混色によって自然な色あいの作品とすることができたか。 ・制作時間なりの完成度の作品となっているか。			○	○	16
E 単元 そっくりりに造る（立体造形） 【知識及び技能】 ・石塑の特徴を理解し、立体造形の作り方について学ぶ。様々な角度から対象物を鑑賞し、写実的に表現する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・各々のモチーフをよく観察し、形	・指導事項 立体造形の制作方法、石塑の扱い方、紙やすり、棒やすり等の使用方法、自然な色の作り方等 ・教材 教科書、自分で用意したモチーフ、粘土造形用具、参考作品等	○			○	・石粉粘土の特性を活かし、用具を適切に扱いながら、できる限り細部までモチーフに近づくように造形できたか。 ・モチーフをよく観察し、構造を考えながら造形することができたか。 ・モチーフをよく観察し、そっくりりになるように試行錯誤して色を作り、着色すること			○	○	12

高等学校 令和6年度（1学年用） 教科 芸術 科目 書道 I

教科：芸術

科目：書道 I

単位数：2 単位

対象学年組：第 1 学年 A 組～ H 組

教科担当者：（A・B組：梅津幸子） （C・D組：大畑義子） （E・F組：梅津幸子） （G・H組：梅津幸子） （組： ）

使用教科書：（書 I 光村図書 ）

教科 芸術

の目標：

【知識及び技能】芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

科目 書道 I

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配当 時数		
			漢	仮	漢								
1 学 期	書道で学習すること 書写から書道へ 【知識及び技能】 用具・用材の特徴と表現効果との関わり 用筆・運筆から生み出される書の表現性 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に書道の幅広い表現の学習に取り組む	・書道の三分野（漢字の書・仮名の書・漢字仮名交じりの書）と、臨書・鑑賞・創作という学習方法があることを理解する。 ・小・中学校国語科書写と高校書道の学習の違いを理解する。 ・国語科書写で学習した内容（筆使い・字形など）を確認する。				○	○				○	4	
	漢字の書 楷書 【知識及び技能】 書風と古典に基づく基本的な用筆・運筆 【思考力、判断力、表現力等】 古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想・工夫 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に楷書の幅広い表現・鑑賞の学習に取り組む	・楷書の用筆、運筆、結構や字形の取り方について理解し、技法を習得する。 ・古典を臨書する意義について理解する。 ・唐の四大家の楷書作品の臨書から書風の違いを理解し、技法を習得する。				○	○				○	○	24
2 学 期	漢字の書 行書 【知識及び技能】 書体や書風と用筆・運筆との関わり 【思考力、判断力、表現力等】 古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想・工夫 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に行書の幅広い表現・鑑賞の学習に取り組む	・行書の特徴を理解する。 ・行書の用筆・運筆の技法を理解し、習得する。 ・書道史における書聖・王羲之と「蘭亭序」について理解する。 ・「蘭亭序」を鑑賞し、卒意の書ならではの多様な書きぶりを理解する。 ・筆脈と抑揚を意識して「蘭亭序」を臨書する。				○	○				○	○	20
	漢字の書 草書・隸書 【知識及び技能】 書体や書風と用筆・運筆との関わり 【思考力、判断力、表現力等】 古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想・工夫 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に漢字の書の幅広い表現・鑑賞の学習に取り組む	・草書の成立過程や通行書体としての性質を確認する。併せて草書を簡略化して仮名が生まれたことを理解する。 ・「真草千字文」を鑑賞・臨書し、草書の特徴・用筆を理解する。 ・隸書の成立過程や公式書体としての性質を確認する。 ・「曹全碑」の鑑賞・臨書し、八分隸の字形や線質、用筆の特徴を理解する。				○	○				○	○	8
3 学 期	仮名の書 【知識及び技能】 古典に基づく基本的な用筆・運筆、線質を生かした表現 【思考力、判断力、表現力等】 古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に仮名の書の幅広い表現・鑑賞の学習に取り組む	・仮名の成立について理解する。 ・仮名の基本的な用筆・運筆を理解し、習得する。 ・平仮名・変体仮名について理解する。 ・「蓬萊切」「高野切第三種」を鑑賞し、典型的な仮名の美を感じ取る。 ・「蓬萊切」をもとに連綿の法則を理解する。 ・「高野切第三種」の伸びやかな用筆・運筆を鑑賞し、特徴を理解する。				○	○				○	○	8
	漢字仮名交じりの書 【知識及び技能】 漢字と仮名の調和した線質・用途や目的に即した表現 【思考力、判断力、表現力等】 全体構成と意図に基づいた表現 【学びに向かう力、人間性等】 主体的に幅広い表現・鑑賞の学習に取り組む	・漢字仮名交じりの書の特徴を理解する。 ・書く言葉を決め、古典や古筆の学習を通して習得した知識・技能を生かし、書体・書風・紙面構成などの観点で作品の構想を練る。 ・試作を重ね、表現を工夫して作品を仕上げる。 ・作品を鑑賞し合い、学習の成果を交流する。				○	○				○	○	6
											合計	70	

高等学校 令和6年度（1学年用） 教科 芸術 科目 音楽Ⅱ

教科： 芸術 科目： 音楽Ⅱ 単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ H 組 選択者

教科担当者： 森田香菜子

使用教科書：（ Tutti+ 教育出版 ）

教科 芸術 の目標：

【知識及び技能】芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるように

【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養

科目 音楽Ⅱ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり、および音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけるようにする。	個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配当 時数
			歌	器	創						
1 学 期	A 単元 独唱・合唱 曲にふさわしい発声で表情豊かに歌おう 【知識及び技能】様々な表現形態による歌唱表現の固有性や多様性について理解している。他者との調和を意識して歌う技能を身につけている。 【思考力、判断力、表現力等】知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、個性豊かに歌唱表現を工夫している。 【学びに向かう力、人間性等】楽曲の特徴や表現上の効果を生かして歌うことに興味をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	・指導事項 伸び伸びとした発声で、発音に留意し、表情豊かに歌う。2重唱、3重唱のアンサンブルを楽しむ。 ・教材 島唄（2重唱）、風の子供（独唱）、ほたるこい（3重唱） ・関連楽曲鑑賞	○			○	・曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて理解している。曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身につけ、歌唱で表している。 ・音色、リズム、速度、旋律、テクスチャア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、どのように歌うかについて創意工夫している。 ・曲想と音楽の構造や歌詞との関わりに関心を持ち、主体的・協働的に歌唱の学習に取り組もうとしている。	○	○	○	12
	B 単元 リズムアンサンブルを楽しもう 【知識及び技能】創意工夫を生かした表現をするために必要な、他者との調和を意識している。 【思考力、判断力、表現力等】知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、個性豊かに表現している。 【学びに向かう力、人間性等】他者と協働しながら、楽曲の特徴を生かした表現ができるよう、試行錯誤したり、意見を交換する。	・指導事項 リズムを正確に読み取り、表現意欲をもってリズムアンサンブルを行う。 ・教材 Clapping Quartet No. 4 ・関連楽曲鑑賞		○	○	○	・楽譜をみながら、手拍子や足踏みの奏法について理解している。 ・音色・リズム・強弱・構成等を知覚し、それらの働きを感じながら、どのように演奏するかについて表現意図を持っている。 ・他者との調和を意識して演奏することに関心を持ち、主体的・協働的に学習活動に取り組んでいる。	○	○	○	8
	C 単元 ギターアンサンブルを楽しもう 【知識及び技能】ギターの奏法を身につけ高める。 【思考力、判断力、表現力等】個性豊かに表現を創意工夫する。 【学びに向かう力、人間性等】アンサンブル活動をするに関心を持ち、試行錯誤しながら、表現を工夫する	・指導事項 チューニング、運指の確認 曲に合わせた響きを作り出すため、右手のはじき方を工夫する。 アンサンブルでは互いの役割を意識して発表に向かう。 ・教材 きらきら星、シューベルトの子守歌 ・関連楽曲鑑賞	○	○		○	・曲想とギターの音色や奏法との関わりについて理解している。曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身につけ、器楽で表している。 ・音色、リズム、速度、旋律、テクスチャア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、どのように演奏するかについて表現意図を持っている。 ・曲想とギターの音色や奏法との関わりに関心を持ち、主体的・協働的にアンサンブルの学習に取り組もうとしている。	○	○	○	8
2 学 期	D 名曲プレゼンテーション 【知識及び技能】作曲家や楽曲の背景、特徴などを調べ、レポートにまとめる。 【思考力、判断力、表現力等】紹介文を作成し、作曲家や楽曲の背景、特徴などをプレゼンテーションできる。 【学びに向かう力、人間性等】自身の選んだ楽曲について味わい、それを伝えることに、主体的・協働的に取り組む。	・指導事項 レポートの作成、視聴覚機器の使い方 ・個々の発表曲鑑賞				○	・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解を深めている。 ・曲や演奏に対する評価とその根拠、自分や社会にとっての音楽の意味や価値、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽の良さや美しさを深く味わっている。 ・紹介文を作成してプレゼンテーションすることや、他者の発表する音楽を味わうことに興味を持ち、主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組もうとしている。	○	○	○	10
	E 物語と音楽の関わり 【知識及び技能】オペラ・ミュージカルなどの総合芸術において物語と音楽の関わりについて知識を深める。 【思考力、判断力、表現力等】音楽と物語が関わり合いながらの	・指導事項 アリアの歌唱指導 作品の登場人物、物語、背景について ・教材 トゥーランドット ウェストサイドストーリー					・曲想と音楽の構造や歌詞、文化的歴史的背景との関わり、言葉の特性や他の芸術との関わりについて理解している。 ・曲や演奏に対する評価とその根拠、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽の良さや美しさを自ら味わって聴いている。 ・総合芸術において物語と音楽の関わり合い				

高等学校 令和6年度（1学年用） 教科 芸術 科目 保育系音楽

教科：芸術

科目：保育系音楽

単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 A組～H組 選択者

教科担当者：森田香菜子

使用教科書：（ ）

教科 芸術

の目標：

【知識及び技能】芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるように

【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養

科目 保育系音楽

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
幼児と歌い遊ぶ音楽について、ピアノの基礎的な奏法を身に着け、弾き歌いのできるようになる。子どもの発達と音楽について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけるようにする。	個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、子どもと歌を歌う際の歌い方、伴奏の在り方について考え、表現できるようになる。	主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配 当 時 数	
		歌	器	創							
1 学 期	A ピアノ基礎技法 【知識及び技能】 基礎的なピアノ奏法について、指、手の使い方、楽譜の見方等を身につける 【思考力、判断力、表現力等】 自分で弾いた音を客観的に感じとり、表情豊かな演奏を目指す 【学びに向かう力、人間性等】 根気よく練習に取り組み、ピアノ奏法を身につける姿勢をもつ	・指導事項 指番号、手・指の動かし方 ・教材 配布楽譜、電子ピアノ				・手、指の基本的な動かし方を身につけている。楽譜を読み、指番号等も理解できている。 ・弾いた音を聴いて、なめらかな音のつながりを求められている。 ・よりよい演奏を目指し、根気よく練習に取り組んでいる。	○	○	○	3	
	B 童謡ピアノ弾き歌い 【知識及び技能】 季節の童謡など、子どもと歌うことを想定し、楽しくリードして歌うことができる。ピアノ伴奏を弾くことができる 【思考力、判断力、表現力等】 テンポや歌とピアノの音量のバランスに留意し、表情豊かに弾き歌いができる 【学びに向かう力、人間性等】 根気よく練習に取り組み、子どもと歌うことを楽しむ	・指導事項 運指、レガート奏法、 ・教材 配布楽譜、電子ピアノ		○	○		・弾き歌いをしながら人に聴かせたり、いっしょに歌ったりする場合の表現方法を工夫することができる。 ・歌と伴奏それぞれの役割を理解して表現に生かすことができる。 ・曲想と音楽の構造や歌詞との関わりに関心を持ち、主体的・協働的に弾き歌いの学習に取り組もうとしている。	○	○	○	18
	C ギター演奏基礎（コード弾き歌い） 【知識及び技能】 曲にふさわしい奏法や身体の使い方などの技能を身につけ、演奏ができる 【思考力、判断力、表現力等】 テンポや歌とギターの音量のバランスに留意し、表情豊かに弾き歌いができる 【学びに向かう力、人間性等】 根気よく練習に取り組み、子どもと歌う時の伴奏ができるよう練習に取り組む	・指導事項 コードの抑え方（C, D, G） ストローク ・教材 配布楽譜、クラシックギター				・曲想とギターの音色や奏法との関わりについて理解している。曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身につけ、器楽で表している。 ・歌と伴奏それぞれの役割を理解して表現に生かすことができる。 ・曲想とギターの音色や奏法との関わりに関心を持ち、主体的・協働的に学習に取り組もうとしている。				10	
2 学 期	D ハンドベル合奏 【知識及び技能】 ハンドベルの特徴を生かし、互いの音をよく聴き合ってアンサンブルができる 【思考力、判断力、表現力等】 子どもがハンドベル合奏することを想定し、ベルの振り分けや練習を主導することができる 【学びに向かう力、人間性等】 アンサンブル活動をするに関心を持ち、自己のイメージをもって創意を工夫する	・指導事項 ハンドベル奏法、ベルの振り分け方 ・教材 配布楽譜、ハンドベル				・チャイムの特徴を理解し、互いの音をよく聴き合って一体感のあるアンサンブルをする。 ・各音の役割や全体の響きについて一人一人が主体的に考え、音色、フレーズ、強弱などを工夫してアンサンブルをすることができる。				6	
	E 自由選曲による童謡ピアノ弾き歌い 【知識及び技能】 季節の童謡など、子どもと歌うことを想定し、楽しくリードして歌うことができる。ピアノ伴奏を弾くことができる 【思考力、判断力、表現力等】 自らの表現技能に見合う楽曲を選曲し、子どもの歌の表現内容を総合的に理解し、弾き歌いができる。 【学びに向かう力、人間性等】 表現意図をもって創造的に弾き歌いができる。 子どもと歌うことを想定し、根気よく練習に取り組み、主体的・協働的に学習に取り組む	・指導事項 指番号の工夫、レガート奏法、歌い方・合図の出し方 ・教材 配布楽譜、電子ピアノ				・自らの表現技能に見合う楽曲を選曲し、子どもの歌の表現内容を総合的に理解し、弾き歌いができる。 ・表現意図をもって創造的に弾き歌いができる。 ・子どもと歌うことを想定し、根気よく練習に取り組み、主体的・協働的に学習に取り組む					

